Table of Contents

1 Introduction 1
MATSUKATA Fuyuko

2 Siamese-Burmese Diplomacy:
A Study of the Royal Letters of the Long 1630s
presented at the Historiographical Institute, University of Tokyo
29 November 2019 9
Bhawan Ruangsilp

3 Chaophraya Phrakhlang's letter of 1703 on behalf of King Seua
to the *Hoge Regering*: trade, treaty and the royal command 19
Dhiravat na Pombejra

4 The Emperor's Words and Letters
– The Two Levels of Early 15th century Ming – Joseon Relations 45
JUNG Donghun

5 Languages in the Qing Investiture Letters for Chosŏn
before the Conquest of China 58
KOO Bumjin

6 After the Seminar 81
MATSUKATA Fuyuko

Short Bios of the Contributing Authors 82

東京大学ヒューマニティーズセンター　オープンセミナー特別回

王の手紙、皇帝の文書：外交の世界史に向けた韓国、タイ、日本の物語の試み

▸ 2019年11月29日（金）13:00 – 19:00
▸ 東京大学伊藤国際学術研究センター　3階　中会議室

入場無料 | 事前登録不要

報告者：パーワン・ルアンシン（チュラーロンコーン大学）、ティーラワット・ナ・ポンペット（チュラーロンコーン大学）、鄭東勲（ソウル教育大学）、丘武貞（ソウル大学）
司会：松方冬子（東京大学史料編纂所）

言語：英語・朝鮮語・日本語

主催：ヒューマニティーズセンター，東京大学史料編纂所

外務省文書ウィレム２世の将軍宛ての手紙への返書（1845年）
老中唐紙書状
（オランダ国立公文書館所蔵 NL-HaNA, 2.05.02/347a）

【概要】
前近代の外交の世界史を語るうえで、欠かせないの古明書であるしかし、この書が日本編ヨーロッパ型の外交史の外にあるかのように、その全貌な具体像は必ずしも十分明らかにされていない。本セミナーでは、タイと朝鮮から研究者を招き、報告を聞くとともに、共通の議論の土台を考えることを、目指す。
パーワン・ルアンシン氏（Bhawan Ruangsilp）は、アユタヤ王朝末期及びオランダ東インド会社文書に記録された文書の分析を通じて、近世のタイとビルマが如何に対話の道を作り交渉を続けようとしたかを探る。ティーラワット・ナ・ポンペット氏（Dhiravat Ruangsilp）は、オランダ東インド会社と朝鮮アユタの近世社会に対シャム条約の更新と半世紀間の延長を合同した際、外務・財務大臣（プラクラン）から、外交官のプロトコルや交渉、この合意文書について会計過程に渡った手紙を分析する。鄭東勲氏（JUNG Donghun）は、明の皇帝から宦官を通じて朝鮮に伝えられた非公式のメッセージと、公式の文書には出てこない皇帝の個人的な興味が反映されていたことを明らかにする。丘武貞氏（KOO Bumjin）は、16世紀中期の内乱期以前における朝鮮王室の朝貢文書が倉庫であったか否かを問い、明代の記録から実際に辿る。

問合先：東京大学ヒューマニティーズセンター事務局
Tel: 03-5841-2654
E-mail: humanitiescenter.utokyo@gmail.com
URL: http://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/

ヒューマニティーズセンター
Humanities Center
東京大学史料編纂所